



# Annual Report 2022

認定 NPO 法人 FaSoLabo 京都

# もくじ

理事長ご挨拶	… 2P
活動理念	… 3P
FaSoLabo 京都 1年のあゆみ	… 4P
事業報告	… 6P
組織／助成金・補助金実績／新聞掲載	… 19P
3カ年計画	… 20P
2022年度財務諸表	… 22P
会員募集	… 23P



## 理事長 ごあいさつ

いつも、私たち FaSoLabo 京都の活動を支えてくださりまして、ありがとうございます。

2022 年度の事業報告をお届けします。本法人は、2005 年 4 月に任意団体としてスタートして以来、多くの方々に支えられながら、食物アレルギーの子どもと保護者や家族を支える活動に取り組んで来ました。2017 年度には、事業内容の一層の充実を図って、法人名称を「アレルギーネットワーク京都びいちゃんねと」から「FaSoLabo 京都」に変更しました。いつも支えてくださっている皆さんの思いを大切にしながら、これからも様々な事業に取り組んでいく所存です。

2020 年度以来、コロナ禍のなかで思うように活動が出来ない状態で 3 年目を迎えた 2022 年度でしたが、それでも子ども達や保護者の方々の思いに励まされ、支えられながら、事業を行ってきました。

この報告書にありますように、感染予防対策に配慮しながら、「社会的理解」、「当事者支援」、「支援者支援」などをテーマに様々な活動を展開してきました。また従来の「つどいの広場」の活動も継続しつつ、新たな取り組みとして食物アレルギーの子ども視点に立った自立支援の調査研究である「子ども・若者研究」も立ち上げました。

これからも、食物アレルギーをもつ子どもと家族が当たり前、安心して暮らせる環境づくり、そして一人ひとりの子どもが健やかに育つ、住みよい地域や社会づくりに向けて、皆さまと力を合わせて取り組んでいきたいと思っております。一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2023 年 6 月

認定 NPO 法人 FaSoLabo 京都

理事長 楠 隆

# FaSoLabo 京都 の 活動理念

## 事業・活動

「食物アレルギー」は、広く社会で知られるようになり、学校・保育園・幼稚園・子育て支援施設等ではある程度の対応、配慮がなされるようになってきました。しかしながら、一般家庭の集合体である地域での食物アレルギーの対応はまだ難しいものと捉えられており、食物アレルギーの子どもやその家族は、飲食を伴う地域の行事には参加しづらい状況が残っています。また、世帯規模の縮小や地域コミュニティの希薄化により、災害時に配慮が必要となる食物アレルギーの子どもの存在や必要な配慮に気が付いていない場合も多いといえます。

そこで私たちは、「子どもを真ん中に」した取り組みや地域他団体との連携を深めることにより、地域での食物アレルギーの社会的理解を切り口に、食物アレルギー当事者の生活の質の向上を図り、食物アレルギーの有無に関わらず、みんなが一緒に安心して暮らし続けられる社会の実現を目指して、事業・活動を行います。

1. 食物アレルギーの子どもとその家族の QOL（生活の質）の向上
2. 食物アレルギーへの社会的理解

## FaSoLabo 京都 へ

「Fa」 は food allergy（食物アレルギー）

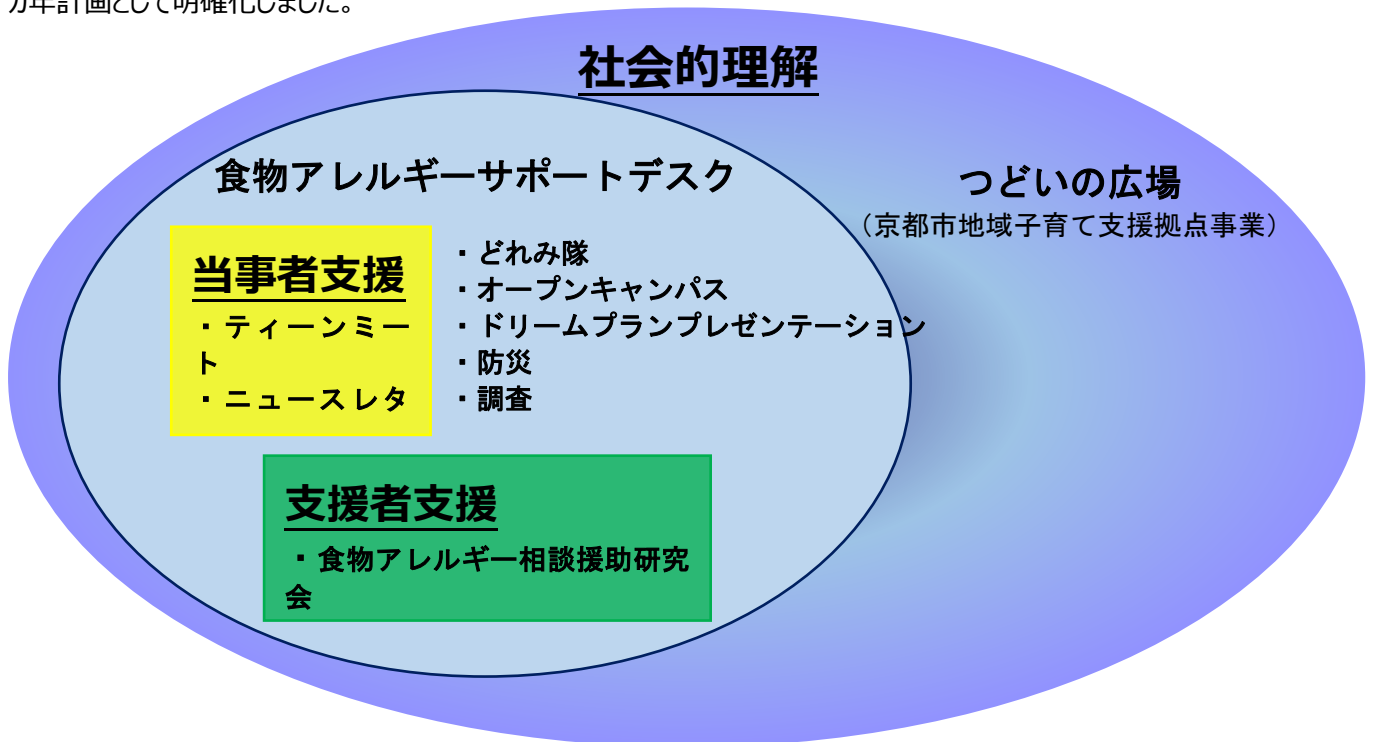
「So」 は social work（ソーシャルワーク）・sower（種をまく人）

「Labo」 は Laboratory（研究所）

法人名称には、食物アレルギー支援の将来へのたくさんの思いや願いが込められています。

## 「共に」考え・変えていく活動

食物アレルギーの子どもや家族、専門医・エドゥケーター等医療関係者、社会福祉士等ソーシャルワークの専門家、子育て支援者など多様なステークホルダーが、地域社会を「共に」考え・変えていく活動を当法人の活動主体であることを 3 年計画として明確化しました。



私たちは、活動理念に基づきミッション達成のために、社会的理解・当事者支援・支援者支援の 3 つの柱で事業・活動を実施しています。それぞれの事業は、個々に実施するのではなく、相互に関わりあいながら進めています。

# FaSoLabo 京都 1年のあゆみ

2022年4月1日 ~ 2023年3月31日

■ 社会的理解 ■ 当事者支援 ■ 支援者支援

※主対象はタイトルに、並行した対象はタイトル右の「●」で表示しています

## 子ども・若者研究●

食物アレルギーの子どもが必要としている子ども視点の自立支援の調査研究 →P7

## つどいの広場

P14 に事業詳細を掲載しています。こちらには、食物アレルギーに関わる事業のみをピックアップしています。

## 4 子ども会議●

4/23 (土) 参加：6名 ボランティア3名  
5/7 (土) 参加：10名 ボランティア3名  
5/14 (土) 参加：8名 ボランティア2名

食物アレルギーの有無に関わらず、地域の子どもたちが食物アレルギーを学ぶ機会とし、アレルギー配慮のお店屋さん（駄菓子屋・ゲーム屋）を子どもたちに企画してもらいました。→P11



## 5 オープンキャンパス●

5/29 (日)

参加：延べ大人 18名・子ども 22名

食物アレルギーの有無に関わらず集える場を広く社会に発信することを目的として、法人の活動拠点を地域に開放し実施しました。→P12



## 7 乳幼児のスキンケア講座●

7/9 (土) 参加：2組4名

小児アレルギーエドゥケーターの笹畑美佐子先生に、乳幼児のスキンケアについて教えていただきました。



## 8 食物アレルギー ドリームプランプレゼンテーション●

8/6 (土) 参加7名

視聴（会場33名 オンライン81名）

→P8

## アレルギーがあってもなくても 楽しいごはん●

8/20 (土) 参加：1組2名

→P14

## 大学生インターンの受入れ①

NPO 法人ドットジェイピーより、8月~9月に2名の大学生を受け入れました。→P17

## ティーンミート①

9/10 (土) 参加：7名

食物アレルギーの当事者同士で自分の思いや、進学・就職や学校生活、社会生活における悩み事を共有できる場所をつくりました。→P6

## どれみ隊①●

9/17 (土) 参加：5組7名

→P10

## 6 同心児童館出張交流会●

6/16 (木) 参加：3名

→P15

## 7 専門医さんに教えてもらおう●

6/25 (土) 参加：3組7名

アレルギー専門医の安野哲也先生に子どもの食物アレルギーについて教えていただきました。→P14

## 8 ニュースレターNo.155 発行

2022年度から新しく始まった「どれみ隊」の紹介や2人の新スタッフの紹介を掲載しました。



## ニュースレターNo.156 発行

食物アレルギードリームプランプレゼンテーションの実施報告やハロウィンにおすすめの特定原材料 7 品目不使用のお菓子を紹介しました。

## お芋ほり ●

10/16 (日) 参加：4組 16名

京田辺市の地域コミュニティ「ばーばの手」主催のおいもほりに参加しました。



## 同心児童館食物アレルギー学習会

10/12 (水) 参加：49名

同心児童館学童クラブの子どもたちを対象に、食物アレルギーのお話をしました。 →P15

## ブルーパンプキンハロウィン寝相アート

10/24 (月) 参加：5組 10名

乳幼児と保護者を対象としたハロウィンイベントとして、同心児童館の協力を得て、寝相アートにブルーパンプキンを取り入れ、ブルーパンプキンについて周知を行いました。 →p 15

## 京都三条会商店街ハロウィン夜店 ●

10/29 (土) 参加：76組 112名

三条会商店街のハロウィンイベント「ハロウィン夜店」で、毛糸で作る「ブルーパンプキンの製作キット」と「食物アレルギー対応食品」が当たるガチャガチャの出店を行いました。 →P16



## お菓子を通じて子どもと学ぶ防災

11/19 (土) 参加：4組 9名

防災士による防災講話・防災クイズで親子と一緒に防災について学び、スーパー等で購入できる特定原材料 7 品目不使用のお菓子を使った「防災お菓子ポシェット」を作成しました。



## どれみ隊② ●

12/3 (土) 参加：4組 10名

専門医から食物アレルギーについてみんなで学ぶ機会を作りました。 →P10

## 乳幼児のスキンケア講座 ●

12/10 (土) 参加：3組 7名

小児アレルギーエドゥケーターの笹畑美佐子先生に、乳幼児のスキンケアについて教えていただきました。



## ニュースレターNo.157 発行

FaSoLabo オープンキャンパスの紹介やアレルギーっ子の一年の生活準備カレンダーを提案しました。



## 大学生インターンの受入れ②

NPO 法人ドットジェイビーより、2月～3月に2名の大学生を受け入れました。 →P17

## どれみ隊③ ●

2/4 (土) 参加：6組 7名

どれみ隊で開催するイベントを話し合いました。 →P10

## オンライン防災啓発シンポジウム

2/18 (土)

災害時連携 NPO 等ネットワーク主催シンポジウムにパネリスト参加しました。 →P17

## ティーンミート②

2/25 (土) 参加：7名

→P6



## 食物アレルギー相談事例勉強会 ●

3/4 (土) 参加者：11名

子ども・子育て支援に携わっている方を対象とし、身近な相談窓口である地域子育て支援拠点での相談事例を取り上げ、子育て支援員、助産師、保護者、アレルギー専門医などで、意見交換を行いました。 →P17

## 食物アレルギーサポートデスク

### ほっとできる、いつでも集える場所

食物アレルギーの子どもとその保護者の常設の居場所として、食物アレルギーについて相談できる場所、つながりを感じられ、ほっとできるセーフティネットでありたいと願って運営しています。新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、対面とオンラインを併用しながら活動を実施しました。

### ティーンミーティング（中京区民まちづくり支援事業補助事業、京都府地域交響プロジェクト交付金補助事業）

食物アレルギーの10～20代の中学生、高校生、大学生、社会人対象

9/10（土） 参加 7名

2/25（土） 参加 7名

ファシリテーター 細川 真奈さん（アレルギーナビゲーター®・株式会社イトイズ 代表取締役）

ゲストスピーカー 鋤崎 理子さん 鷲 裕一さん（社会人）

ティーン世代の食物アレルギーの子どもは、同世代同士で交流ができる機会や居場所が少ないという現状があります。本事業では、ファシリテーターである細川真奈さんやゲストスピーカーへの質問を中心に交流を行いました。

食物アレルギーについての悩みや困りごとについて皆で考えたり、食物アレルギーがあっても食べられる商品やお店でのテイクアウト方法について情報交換を行ったり、食物アレルギーの子どもたちの支援をしたいと意見交換を行う場面もありました。“自分たちの未来は自分たちが築く”という意志を感じることができました。



当事者支援と社会的理解は、一対だと考えます。

客観的調査や食物アレルギーの子どもたち自らの発信により、当事者の姿・声を社会に適切に届け、食物アレルギーの子どもたちが本当に必要としていることへの理解を広げ深めたいと思っています。



## 食物アレルギーの子どもが必要としている子ども視点の自立支援の調査研究（ファイザー(株)助成事業）

### ◎1年目（新規採択 2022.1.1~12.31）

当法人が活動を開始してから17年が経過し、当時乳幼児であった食物アレルギーの子どもたちは、高校生・大学生・社会人へと成長しました。彼らの中には、自身の食物アレルギーの経験から将来の夢を持ち語る子どもや、支援活動をしたいという子どももいます。一方で、社会生活を送る中で、思春期・青年期特有の悩みを持つ子どももいます。そして、これらの子どもたちと深く関わると、「どこかみんなの輪に入れない疎外感」・「社会への諦め」を語る子どもが多かったです。

#### 1) 食物アレルギーの子どもの治療環境・生活環境についてアンケートの実施

本研究では、大人が描く「自立支援」と、食物アレルギーの子どもの描く「自らの自立」の相違について明らかにすることを目的に、調査対象者を6カテゴリー（医師、医師以外の医療従事者、高校生以上の食物アレルギーの子ども、保護者、高校生以上の食物アレルギーではない子ども、支援団体・個人）に分類し、延べ約250名に量的調査を実施しました。

食物アレルギーの発症が乳幼児期であり生活のしづらさを保護者が子どもより先に享受すること、生活の一部である食事の管理が治療となること、周りからは外的に見えない疾患であること、など特徴的な治療環境や生活環境が、前述の疎外感や社会への諦めといった潜在意識に影響を与えているか否かを分析しました。

#### 2) 日本小児アレルギー学会への参加

11月に沖縄で開催された日本小児アレルギー学会に参加し、アレルギー疾患対策基本法に携わられた医療技官の方など、新たな出会いもあり多くの学びを得ることができました。

学会の演題には、「移行期医療」・「自立」・「F A児のQ O L」がキーワードとして頻出していました。最も印象的な演題は、成人医療の内科医師が指摘した食物アレルギーの子どもの課題について、他の慢性疾患と比較した報告でした。

また、食物アレルギーへのチーム医療が既に実施されている病院もあり、福祉職（MSW・SSW）との連携も図られていたり、インフォームド・アセントの取り組みを行っている、他の疾病の子ども病院もありました。

### ◎2年目（継続採択 2023.1.1~12.31）

2年目となる調査・研究では、「食物アレルギーの子どもの自立においてソーシャルワークがどのような貢献ができるのか」をテーマに、

- ・病院
- ・高校生以上の食物アレルギーの子ども
- ・高校生以上の一般の子ども

を対象に更に深く調査を実施し、ペアレントトレーニングの提案を行う予定です。



## 食物アレルギードリームプランプレゼンテーション (小林製薬青い鳥財団助成事業)

2022年8月6日(土)

参加7名 視聴(会場33名 オンライン81名)



### 主役は食物アレルギーの子どもたち

食物アレルギーを通して、社会に伝えたいこと・社会にできること はなに？

食物アレルギーを通して、叶えたいと思ったこと・描く夢 はなに？

子どもが真ん中となり、子ども自身が未来を描けるように。

子どもの発信を聞き、子どもの姿を見て、大人の新たな気付きとなるように。

そんな願いを込めたプロジェクトです。

今回2回目となる、食物アレルギードリームプランプレゼンテーションには、

全国から集まった小学5年生から大学4年生まで7名の子どもたちが参加しました。



とても緊張しながら迎えたであろうこの日の子どもたちの発表は、優しさとしなやかさにあふれたものでした。子ども一人一人には、それぞれ大人サポーターが伴走していました。当日の会場での両者のやり取りを見ていると、大人サポーターが、親身になって子どもを支えてくださっていた様子が伝わってきました。

また、第1回参加の子どもたちを招待し、協賛企業様からのプレゼント授与を担当しました。第1回(2020年8月8日開催)は、新型コロナ禍のため、オンラインでの開催となり、対面で再会できたことはとても嬉しいことでした。

### 食物アレルギードリームプランプレゼンテーション プログラム

- ◎「アレルギーだからかわいそう」はおかしい！／岩下陽希人さん(小学生)
- ◎私の夢～キッチンカーでスイーツを届けたい～／坂本笑那さん(小学生)
- ◎命を救う「ことば」／鷹影咲良さん(中学生)
- ◎ゲストハウス～食で人と人をつなぐ宿～／田村心花さん(高校生)
- ◎アレッ子たちにハッピーライフを届けたい！／横山愛実さん(大学生)
- ◎食物アレルギー 親子と学校をつなぐフードダイバーシティアドバイザープロジェクト／菅野吏紗さん(大学生)
- ◎選択肢の多い社会へ／竹谷日向さん(大学生)

▼食物アレルギーを楽しく学べる手作りのカードゲームを紹介する岩下さん

▼坂本さんの描いたキッチンカー





プレゼンテーション終了後には、会場となったマトイルファクトリー（世田谷区上北沢）さんで、参加者全員の食物アレルギーに配慮された軽食を食べながら交流会もできました。この時、初対面だった子どもたち同士は、その後も交流が続いているようです。



### ご協力いただいたみなさま

- ☆実行委員：村田愛さん（アレルギーっ子の旅する情報局 CAT）・細川真奈さん（アレルギーナビゲーター®・(株)イトイズ代表）
- ☆大人サポーター：石井大佑さん・今村慎太郎さん・大西宏明さん・鋤崎理子さん・谷本憲明さん・中根みちるさん・廣瀬翼さん
- ☆子どもたちの発表に、感想と共に素敵なプレゼントをお贈りくださった企業さま（敬称略）

株式会社ウエルネス・ラボ / UMAMI UNITED JAPAN 株式会社 / 太田油脂株式会社 / オタフクソース株式会社  
ケンミン食品株式会社 / 株式会社にんべん / 日本ハム株式会社



## どれみ隊

子どもたちによる、子どもたちのための、子どもたち視点の発信から、食物アレルギーの社会的理解や配慮が広がり、誰もが暮らしやすい社会となることを目的にスタートした新規事業です。

初年度はミーティングと勉強会を行い、子どもたちが食物アレルギーに関してやってみたい事、挑戦したい事を話し合いました。子どもたちの意見や感想から、食物アレルギーの子どもたちは食の関わるイベントには参加しづらく、自分の食物アレルギーを通しての体験や思いを伝える機会を喪失していることがわかりました。

そこで、子どもたち自身が自分の思いを伝え、主体的に活動できる場として、子どもたちが希望した食物アレルギーに配慮したイベントを次年度に向け3つ企画しました。

また、専門医による勉強会では、大人と子どもと一緒に食物アレルギーについて学びました。子どもにとっては、改めて自分の食物アレルギーと向かい合う機会となっていたようです。

第1回 9/17 (土) ミーティング

第2回 12/3 (土) 食物アレルギー勉強会

講師：青山三智子 さん (アレルギー専門医、京都府立子ども発達支援センター)

第3回 2/4 (土) ミーティング

参加 延 28 名

### ▼第2回 食物アレルギー勉強会 (オンライン併用)



## 子ども会議（中京区民まちづくり支援事業補助事業・京都府地域交響プロジェクト交付事業）

4/23(土) 参加 9名、ボランティア 3名

5/7(土) 参加 8名、ボランティア 2名

5/14(土) 参加 6名、ボランティア 2名

当法人が開催するオープンキャンパスは、例年、子どもたちが主体となって「アレルギー配慮の駄菓子屋さん」と「ゲーム屋さん」コーナーを担当しています。

それに伴い、子ども会議では

- ・地域の子どもたちと食物アレルギー当事者の子どもが、共に食物アレルギーについて学ぶ機会
  - ・少しの配慮で、食物アレルギーの有無に関わらず、食を伴った時間を共有できることを学ぶ機会
- などを目的に、食物アレルギーの有無に関わらず、子どもたちが一緒に準備を行いました。

2022年度は、これまでの経験を積んだ子どもが子ども会議の進行を担当し、子どもスタッフの成長を感じることができました。

2023年度以降は、どれみ隊事業に集約します。



## オープンキャンパス 2022

(中京区民まちづくり支援事業補助事業・令和4年度地域交響プロジェクト交付金補助事業)

5/29(日) 参加 延べ40名、ボランティア9名

アウトリーチを目的に、恒例のオープンキャンパスは3年ぶりに会場での開催を実現することができました。

今回のオープンキャンパスでは、

- FaSoLabo 京都の存在をより地域に開かれたものにする
- 食物アレルギーに配慮したお店屋さんを子どもが主体となって運営し、地域に食物アレルギーに配慮した場のモデルを示す
- 市民ボランティアを受け入れることで、食物アレルギーに配慮したイベントが誰にとっても当たり前のイベントとして認知してもらうことを目的としました。開催までに感染対策について何度も協議を重ね、関係者全員への周知にも努めることで、対面開催ならではの交流を深めることができました。



## 事業報告会

事業報告会では、中京区民まちづくり支援事業補助事業として、中京区を中心に広報に努めた結果、これまでつながりのあった団体だけでなく、複数の地域支援団体に初めてサポートデスクに足を運んでいただきました。FaSoLabo 京都の事業内容を直接知ってもらうことができました。

## お楽しみ企画

- 子どもが主体となって運営を行う子どもお店屋さん「駄菓子屋さん」「ゲーム屋さん」
- 同心児童館の先生による工作コーナー
- 食物アレルギー配慮商品に興味を持ってもらう仕掛け「ガチャガチャ」
- サポーター企業イーデライツ株式会社の食物アレルギー配慮のパン＆スイーツの販売コーナー

お楽しみ企画では会場開催をより楽しめる内容を盛り込み、イベントの臨場感を感じることができました。

子どもお店屋さんでは、多数の市民ボランティアが、子どもスタッフをサポートし、イベントの運営手法を体験することができました。

地域支援団体からの参加者には、イベント運営の様子を見学いただくことで、食物アレルギーに配慮したイベントを地域で開催するモデルを示すことができました。

## ご協力いただいた団体さま

同心児童館

## ご協力いただいた企業さま（敬称略）

石井食品株式会社/イーデライツ株式会社/熊本製粉株式会社  
ケンミン食品株式会社/日本ハム株式会社/株式会社禾  
株式会社永谷園ホールディングス/



## つどいの広場(京都市地域子育て支援活動いきいきセンター事業)

利用者 774組 延べ 1,624人

子育て相談員が常駐し、食物アレルギーの有無に関わらず安心して利用していただけるように努めています。来所された親子が安心して過ごせる場所となるよう、また食物アレルギーの社会的理解を広める大切な場所として運営しています。

### 年間講座・イベント

- 専門医さんに教えてもらおう「子どもの食物アレルギー」 ※ 1
- スキンケアミニ講座 2回
- アレルギーがあってもなくても楽しいごはん ※ 2
- 赤ちゃんのだっこ講座 3回
- ベビーヨガセラピー講座 8回
- パパ DAY (パパの子育てを応援) 6回
- 絵本のひろば〜どうぞのいす〜 3回
- 栄養士さんの日 2回
- 同心児童館の先生と遊ぼう 2回
- えいごであそぼ
- 赤ちゃんのてづくりおもちゃ
- おいもほり
- 三条商店街ハロウィン夜店 →P16
- 初めての木工体験
- 歯科衛生士さんの日

### 専門医さんに教えてもらおう「子どもの食物アレルギー」 ※ 1

6/25 (土) 参加 3組 7名

講師 安野哲也先生 (やすの医院、日本アレルギー学会専門医)

食物アレルギーに対して、漠然とした不安がある方や、これから離乳食を始められる方に向けて、食物アレルギーの正しい知識と、不安解消の機会を目的として講座・交流会を実施しました。

アレルギー専門医の先生に直接質問ができることで、食物アレルギーについてやさしく知ることができました。



### アレルギーがあってもなくても楽しいごはん ※ 2

8/20 (土) 参加 1組 2名

講師 伴亜紀先生 (株式会社 Graine 代表、栄養士)

新型コロナウイルス感染症流行以降、開催できていなかった「見るだけ・食べるだけ」の食物アレルギー配慮のレシピ講座を開催することができました。感染症対策のため、試食は一口のみでしたが、赤ちゃんの実際の咀嚼の様子を見ることもできました。離乳食の不安を直接相談でき、食物アレルギーの有無に関わらず、おいしく楽しく食べられるレシピを知る機会となりました。



## 地域連携

食物アレルギーの社会的理解の促進を目指し、当法人の拠点である京都市中京区地域の団体等と協力して事業を行いました。

## 同心児童館

地域子育て支援ステーションの基幹ステーションである同心児童館とは、年間を通してイベント等で相互に事業協力を行いました。

- 大切な人への贈り物工作 6/13 (月) 参加 6名
- 食物アレルギー出張交流会 (訪問) 6/16 (木) 参加 3名
- 食物アレルギー学習会 (訪問) ※ 3
- ブルーパンプキンハロウィン寝相アート ※ 4

### 食物アレルギー学習会 ※ 3

10/12 (水) 参加 49名

前年度に引き続き、学童利用の小学生に向け、ブルーパンプキンの絵本の読み聞かせを行い、地域の子どもたちに食物アレルギーへの配慮の必要性を伝えることができました。



### ブルーパンプキンハロウィン寝相アート ※ 4

10/24 (月) 参加 10名

ブルーパンプキンを用いることで地域の親子に食物アレルギーについて知ってもらうことができました。



## 京都三条会商店街 ハロウィン夜店 ≪毛糸でブルーパンプキンのマスコットを作ろう！≫

10月29日（土） 参加 76組112名

2022年度はより多くの人に当法人の活動と食物アレルギーのことを知ってもらうことを目指し、近隣商店街のハロウィンイベントに参加しました。

青いかぼちゃが軒先に飾ってあると「食物アレルギーに配慮されたお菓子やおもちゃを用意しています」、子どもが青いかぼちゃの目印を身につけていると「自分は食物アレルギーである」というアピールになっています。その意味を知ってもらうため《ブルーパンプキン》のマスコット製作キットと、食物アレルギー対応食品が当たるガチャガチャをセットにし出店しました。イベントを通じてたくさんの方に食物アレルギーに対し関心を持ってもらえる機会となりました。今後もイベントへの継続参加を続け、食物アレルギーの社会的理解を広める活動のひとつとして定着させていきたいと考えています。



▲ブルーパンプキンを持って参加している子どももいました



◀イベントは多くの人で賑わい、出店前も大盛況でした



## 大学生インターンの受入れ

夏期 2 名・春期 2 名

NPO 法人ドットジェイピー大学生のインターンの受入れを 2 回行いました。「子ども」と「食物アレルギー」を社会課題として関心を持ち、当法人を選出した大学生たちが、サポートデスクやつどいの広場で様々な業務を経験しました。

また、大学生の視点での新事業の提案も行い、私たちにとっても新たな気づきの機会になりました。



## いま、『避難』を考える 防災シンポジウム / 災害時連携 NPO 等ネットワーク主催

2/18 (土) 京都市市民活動総合センター および オンライン

当法人の小谷智恵がパネリストとして参加し、いただいたテーマ「避難時に想定されるスペシャルニーズ」について、「相手を知ることから始めよう」をキーワードにこれまでの経験に基づいた考察をお話させていただきました。パネリストの京都大学防災研究所の牧紀男さん、ミンナソラノシタの林リエさん、コーディネーターのきょうとNPO センターの平尾剛之さんと一緒に、改めて災害・避難について考えることができました。



## 食物アレルギー相談援助研究会

食物アレルギーへの支援は、これまで医療モデルでの支援が主体でしたが、日常生活に欠かせない「食べる」ことが治療となるため、生活モデルでの支援が重要であると考えています。当研究会は、アレルギー専門医・小児アレルギーエドゥケーター・社会福祉士（医療ソーシャルワーカー・スクールソーシャルワーカー）で構成され、相談援助のあり方を検討しています。

## 食物アレルギーに関する相談事例勉強会

3/4（土） 参加 12名

アドバイザー：上原 優子 先生（大阪大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター・医療ソーシャルワーカー）  
上 島 唯 先生（社会福祉士・医療ソーシャルワーカー）  
笹畑美佐子 先生（滋賀県立小児保健医療センター・看護師・小児アレルギーエドゥケーター）  
中村 有美 先生（社会福祉士・スクールソーシャルワーカー）  
青山三智子 先生（アレルギー専門医・京都府立こども発達支援センター）

子ども・子育て支援に携わっている方を対象とし、身近な相談窓口である地域子育て支援拠点での相談事例を取り上げ、子育て支援員、助産師、保護者、アレルギー専門医などで、意見交換を行いました。

また相談援助で大切なコミュニケーションについてはアドバイザーの上原優子先生の講義もあり、貴重な学びの機会となりました。



## 【理事会】

理事長 楠 隆  
副理事長 青山 三智子 上原 久輝  
理事 鵜川 真悟 小谷 智恵 三好 英 元木 啓雄  
監事 河合 将生

## 【事務局】



栗絵美



伊吹睦子



大村奈月美



社会福祉士

小谷智恵



三好英



山田苗子

## 【ボランティア】

大槻真理 鷹影未歩子 田中勇氣 檀美名 出竿乃梨子 松森由樹子

※お名前は掲載できていませんが、他にもたくさんの方がご協力下さいました。

この他にも年間を通して、多くの個人・団体・企業の皆様に当法人の事業を支えていただきました。ありがとうございました。

## 助成金・補助金実績

・ファイザー心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援 2年目（継続助成） 食物アレルギーの子どもが必要としている子ども視点の自立支援の調査研究	150万円
・小林製薬青い鳥財団 食物アレルギードリームプランプレゼンテーション	175万円
・ニッポンハム食の未来財団	40万円
・京都府地域交響プロジェクト交付金	25.3万円
・京都市中京区民まちづくり支援事業	18.2万円

## 新聞掲載

- ・5月30日 京都新聞『食物アレルギーの子 模擬店で理解深めて』（オープンキャンパス2022 取材）
- ・6月12日 京都新聞『何が食べられるか、の視点を 地域や学校「みんなで行事一緒に」』
- ・9月19日 京都新聞『研修重ね安心できる子育てを 食物アレルギー、確かな知識普及』福祉のページ

# 3 年計画

私たちは、食物アレルギーの子どもと家族の支援において常に子どもが真ん中の視点にたち、支援のありかたを提案（種まき）する専門家でありたいと思っています。そして、全ての事業は、**食物アレルギーの子どもが真ん中・食物アレルギーの社会的理解**を意識して実施しています。

		事業	1 年目（2023 年度）	
社会的理解	食物アレルギーサポートデスク	当事者者支援	<p>ニュースレター FaSoLabo 京都との保護者の接点 “独りじゃない”ことを、当事者に伝える</p> <p>ティーンミート 主に中学生以上の食物アレルギーの子どもの交流の場</p> <p>保護者交流会 食物アレルギーの子どもの保護者の交流の場</p>	<p>3 回／年発行する（7 月・10 月・2 月） 子育て支援の場にニュースレターが置かれている</p> <p>1 回／年</p> <p>1 回／年</p>
		支援者支援	<p>食物アレルギー相談援助研究会 教える人⇒学ぶ人ではなく“共に学び合う”場所への転換 生活モデルの視点で支援のあり方を考える場 食物アレルギーの子どもの日常生活についての周知</p>	<p>相談事例勉強会の開催 1 回以上／年</p> <p>※講師・講演、出張アレルギーの学び舎は、研究会事業に集約</p>
		防災		<p>会員更新時、防災グッズを渡す 1 回／年 オープンキャンパスで、防災啓発を実施する</p>
		オープンキャンパス	<p>当法人のアウトリーチの場 子育て・生活モデルの視点での支援のあり方を社会全体で考える場</p>	1 回／年
		子ども会議	<p>オープンキャンパスで、子どもお店屋さんを実施するための会議</p>	3 回／年
		どれみ隊	<p>子どもが、主体的に食物アレルギーに関わる活動を行う場</p>	<p>5 回／年 ・ 10 名程度が常に活動を行っている 子どもが、自分たち自身で発信するスキルを学ぶ</p>
		調査・研究		<p>福祉分野からの調査・研究を行う 食物アレルギーの子どもの支援環境について多職種と連携して調査する 食物アレルギーや社会福祉の関係学会で研究発表を行う</p>
		SNS	<p>ホームページ・Facebook・LINE・Instagram・Twitter</p>	<p>不特定多数の人とつながる場所になっている 必要な人に必要な形で必要な情報が届く 身近なことでの気付きの機会になる</p>
		その他 食物アレルギーに関わる事業		<p>当事者や社会のニーズへの対応が行える体制を検討する</p>
			つどいの広場	
	組織運営		<p><b>FaSoLabo 京都としての組織文化を全員で作成し、共有していく</b></p> <p>&lt;目指す社会像&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーへの関心を示す人が増える</li> <li>・食物アレルギーの子どもと家族の生活の質の向上を社会全体で共に考えられる社会的寛容が進む</li> </ul> <p>&lt;FaSoLabo 京都としての役割&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者の主体的活動の場となる</li> <li>・食物アレルギーと地域の社会的接点になる</li> </ul> <p>&lt;人材育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営に関するスキルを獲得し、新しいことに挑戦できる</li> <li>・ありたい姿、目指す姿、私にとつての FaSoLabo 京都を考える</li> <li>・社会のしくみ（自治体等の公的制度など）を知る</li> <li>・事業運営のための課題・目標を共有するための研修が行える</li> <li>・食物アレルギーについての知識・理解を学ぶ場がある</li> <li>・相談援助研究会に参加し、ソーシャルワークスキルを学ぶ</li> </ul>	

2 年目(2024 年度)	3 年目 (2025 年度)
<p>どれみ隊 (子ども) の発信の場になる 当事者や保護者が知りたいことを知ることができる</p>	<p>発信・交流をしたい者たちが、自ら主体的に活動する場となっている</p>
<p>子ども支援としてセーフティネットの役割が果たせる 子どもが、主体的に交流する場をサポートする</p>	
<p>親支援としてセーフティネットの役割が果たせる 保護者が、主体的に交流する場をサポートする</p>	
<p>地域子育て支援拠点での相談事例、困りごとを<b>研究会事業</b>で検討ができています 食物アレルギーの生活面・精神面を支援する学びの仕組みができる 子育て支援者への垣根を下げる 食物アレルギーの相談援助ができる人材育成の仕組みができる</p>	<p>支援拠点 (団体) 同士のネットワークが構築でき、相互に助け合うことができる 食物アレルギーのソーシャルワークの仕組みができる 食物アレルギーの子どもと家族の生活の質の向上を社会全体で考えられる 医療・福祉・教育の連携ができています</p>
<p>各家庭で、被災時の準備ができています (自助) 地域資源 (講座主催団体・参加個人) の再資源化や、自分たちが居住する地域の防災対策を知り、被災時に備えられる (互助・共助)</p>	
<p>—————</p>	
<p>どれみ隊 に集約</p>	
<p>子どもたちが、自主的に企画・運営するイベントをサポートする 子どもにとって夢や希望が描ける場所になっている</p>	<p>子どもたち自身が住む地域で、食物アレルギーについての発信ができる ニュースレター・SNS などに参画できている</p>
<p>FaSoLabo 京都のメイン事業へ 「食物アレルギーの子ども」「ソーシャルワーク」をキーワードとする研究を深め、関係学会に論文投稿・発表を行う</p>	
<p>ニュースレター・オープンキャンパスに替わる、発信ツールとして活用する どれみ隊の発信の場として活用する</p>	
<p>当事者や社会のニーズへの対応が行える体制を整える (例: 食物アレルギードリームプランプレゼンテーション)</p>	
<p>年間を通して安定した講座やイベントを実施する 地域や利用者親子のニーズの変化に、常に対応できる準備をする</p>	
<p>&lt;働き方&gt;  <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が事業全体を見渡せ、業務の相互補完ができています。残業 0</li> <li>・外部研修へ参加できる体制ができる</li> </ul>           &lt;財源・ファンドレイジング&gt;  <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーター企業との関わりの継続とサポーター企業数の増加</li> <li>・イエローシートキャンペーン (AEON) ・H2O サンタ (エイチ・ツー・オーリテイリング) の寄付活動に参加する (2 回以上/年) 企業・団体・個人とつながる 楽しく寄付との関わりがもてる仕組みを創る</li> </ul>           &lt;情報収集&gt;  <ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーの正しい基礎知識と最新情報を知っている</li> </ul>           &lt;情報発信&gt;  <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・行政が FaSoLabo 京都の取り組みについて知っている、頼られる存在になる</li> </ul>           &lt;コミュニケーション&gt;  <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例ミーティングで困り事・課題が検討できる 1 回以上/月</li> </ul>           &lt;ネットワーク&gt;  <ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーを身近に感じる人たちが増加する</li> <li>・インターンに食物アレルギーの事業活動を学んでもらう</li> </ul> </p>	

# 財務諸表

## 活動計算書

### 【経常収益】

受取会費		459,000	459,000
受取寄付金	受取寄付金	294,666	
	商品等受入評価益	268,667	
	ボランティア受入評価益	530,177	1,093,510
受取補助金等	受取助成金	3,188,830	
	受取補助金	435,000	3,623,830
事業収益	利用者負担金	49,950	
	講師料	100,000	
	業務委託料	6,982,000	
	その他事業収益	95,000	7,226,950
その他収益	受取利息	16	16
<b>経常収益計</b>			<b>12,403,306</b>

### 【経営費用】

事業費	人件費	3,452,303	
	ボランティア評価費用	530,177	
	商品等評価費用	268,667	
	その他事業経費	6,390,555	10,641,702
管理費	人件費	1,422,977	
	その他管理経費	193,764	1,616,741
<b>経常費用計</b>			<b>12,258,443</b>
当期正味財産増減額			144,863
前期繰越正味財産額			△1,474,572
次期繰越正味財産額			△1,329,709

## 貸借対照表

### 【資産の部】

流動資産	現金・預金	103,499
	未収金	765,000
	棚卸資産	56,900
	他店商品券	10,000
	貯蔵品	5,738
	前払費用	175,000
	仮払金	12,300
	<b>流動資産合計</b>	<b>1,128,437</b>
固定資産	差入補償金	300,000
	<b>固定資産合計</b>	<b>300,000</b>
<b>資産合計</b>		<b>1,428,437</b>

### 【負債の部】

未払金	668,364
前受金	1,624,490
預り金	6,243
仮受金	459,049

**負債合計 2,758,146**

### 【正味財産】

△1,329,709

FaSoLabo 京都の事業・活動は、「食物アレルギーの子どもと保護者の QOL（生活の質）の向上」を目的に行っています。これには「当事者支援」と「支援者支援」「社会的理解」3つの支援が大切だと考えています。安心して、継続した支援を行うには、皆様からの資金面でのサポートが大きな力となります。

「フレンズ」は、

「利用者」と運営する「スタッフ」という一方的な関係ではなく、「一緒に活動していく仲間でありたい」という思いを込めて命名しました。実は、他にも「ファミリー」などの名称案も出しましたが、内輪で閉じこもることなく、アレルギーの有無に関係なく仲間の輪を広げていけるようにという思いも込められています。



種別	名称	会費	特徴
正会員		10,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ニュースレターが年3回郵送されます。</li> <li>●会員・フレンズ限定LINEに登録でき、いち早くイベントの案内・申込みが可能です。会員限定イベントにも参加できます。</li> <li>●イベントや講座に無料または割引料金で参加できます。</li> <li>●当法人の総会での発言権・議決権を有し、当法人の事業・活動を実施・運営することができます。</li> </ul>
フレンズ	個人フレンズ	3,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ニュースレターが年3回郵送されます。</li> <li>●会員・フレンズ限定LINEに登録でき、いち早くイベントの案内・申込みが可能です。会員限定イベントにも参加できます。</li> <li>●イベントや講座に、無料または割引料金で参加できます。</li> </ul>
	団体フレンズ	5,000円 ※イベント参加は1回につき2名まで。	
サポーター	個人サポーター	個人：3,000円～ (以降1,000円単位で任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ニュースレターが年3回郵送されます。</li> <li>●寄付金として税制優遇(※)を受けられます。</li> </ul> <p>○イベントや講座の参加に対する割引はありません。</p> <p><u>食物アレルギーの子どもと保護者を支援したい!という方向け。</u></p>
		団体：5,000円～ (以降1,000円単位で任意)	
	企業サポーター	企業：30,000円～ (以降1,000円単位で任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ニュースレターが年3回郵送されます。</li> <li>●サポートデスクを商品のモニタリングや広報などに利用できます。</li> <li>●ニュースレターへ無料で広告を掲載できます。</li> <li>●FaSoLabo 京都のホームページにバナーやリンクを掲載できます。</li> <li>●寄付金として税制優遇(※)を受けられます。</li> </ul>
		個人事業主：10,000円～ (以降1,000円単位で任意)	

※FaSoLabo 京都は2017年1月より認定NPO法人となりました。認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すことによりNPO法人の活動を支援することを目的としており、下のような税制上の優遇措置を受けることができます。

## 地域のためにできること 寄附という応援のかたち 京都市

京都市では、市民活動を市民が支える社会の構築に向けて、寄附を通じた市民の社会参加と寄附を財源とするNPO法人の活動を促進しています。

### 認定(仮認定)NPO法人への寄附者に対する税制上の優遇措置

認定(仮認定)NPO法人とは、NPO法に定める基準に基づき、所得税の寄附金控除等の対象となるNPO法人として所轄庁が認定(仮認定)したNPO法人です。

**国税と地方税あわせて、寄附金額の最大50%が税額から控除されます。**

**所得税額の控除額**  
→(寄附金額-2,000円)×40%

**住民税額の控除額**  
(京都市と京都府がともに条例で指定している場合)  
→(寄附金額-2,000円)×10%

**個人が認定(仮認定)NPO法人に1万円寄附した場合の税額控除例** 「寄附金控除」を受けるためには、確定申告を行う必要があります。



あなたも「寄附」というかたちでNPO法人の活動を応援してみませんか。



### NPO法人にとっての寄附とは?

社会の様々な課題の解決に向けて公益活動を行うNPO法人にとって、財政基盤の安定化を図ることは重要な課題であり、特定の財源に依存しない財政面での自立につながる寄附金は、貴重な財源の一つとなっています。

詳しくは、「京都市自治会・町内会&NPOおうえんポータルサイト」を御覧ください。

京都市 NPO おうえん [検索](#)